

第493回 放送番組審議会

1. 日 時 2014年1月21日(火) 午後1時30分～
2. 開催場所 テレビ岩手 6階大会議室
3. 委員総数 12名

出席委員 9名

委員長	坂本 修
副委員長	柴田 和子
委員	池田 克典
委員	吉江 信博
委員	平 英一
委員	國分 正人
委員	千葉 隆史
委員	嶋 誠治
委員	丸山 謙一

欠席委員 1名

委員	鈴木正之
委員	村川健一
委員	五日市知香

社側出席者	檜崎 憲二 (代表取締役社長)
	山口 英二 (常務取締役)
	青山 尚之 (取締役報道制作局長)
	菅野 智 (営業局長)
	熊谷 慎也 (報道制作局次長)
	菊池 健 (報道制作局報道部副部長)
事務局	遠藤 隆 (編成技術局長)
	平井 直子 (編成技術局編成部副部長)

4. 議 題

1. 12月22日(日) 24:59~25:54 放送
「NNNドキュメント ‘13 もの言わぬ語り部 震災遺構 伝承のカタチ」
2. その他

5. 資 料 (資料として以下のものを配布)

- ・ 視聴者からのご意見

6. 意 見

委員側

- 今回の番組は、震災遺構と言うことで家族や住民のことを考えるとコメントが難しい。津波を思い出したくない人、残したい人がいて、自治体は苦渋の選択を迫られた。国の支援が2年半たって始まった。早期に決めてくれれば残す自治体もあったと思う。決定が遅かった
- 重いテーマに挑んだ良い番組。ナレーションが光っていた。警告があったのに亡くなった。プロローグで如実に出ていた。気仙沼の船は他の遺構と違う。その比較が良かった。メインである防災センターで多くの人亡くなった。番組は示唆に富んでいてメディアとしての意気込みを表している。
- 釜石と南三陸の防災庁舎。行政側の問題を残すべきだった。関係者の中で残してくれと言う意見と、壊してくれと言う意見があること。これは両論あるとしても行政が津波で多くの犠牲をだしたことへの反省をどう伝えていくか盛り込んでほしかった。
- 所々方言でわかりにくいところがあり、字幕で補ってほしかった。

局側

- 震災遺構がなかったらどうなるか。きのうまでの遺構が更地になったら、未来の命を救うための手段をどうするのか。こういうところを主張したかった。国の支援が遅かったというご意見があったが、もう少し早ければ震災遺構をどうするか考える違う道があったかもしれない。
- 番組のトーンとして両論併記にしてどちらの意見も伝える方法もあると思うが、取材した人の主張を織り込むのが大切な仕事だと思った。釜石のように震災の教訓を形にして残そうというのも一つの方法だと思う。